気象大学校

創立百周年記念講演会

線状降水帯～基礎研究が生み出した防災用語～

気象研究所台風・災害気象研究部長　加藤輝之

略歴：昭和62年気象大学校卒業後、気象庁海洋気象部、気象研究所、気象庁予報部・観測部、気象大学校などを経て、令和4年4月より現職。「線状降水帯」研究の第一人者として知られる。

気象庁の地震火山業務と今後懸念される大地震への備え

札幌管区気象台長　青木　元

略歴：昭和62年気象大学校卒業後、福島、静岡、仙台等の気象台、気象研究所、気象庁地震火山部などを経て、令和３年４月より現職。平成28年の熊本地震の記者会見等テレビ出演多数。

日時

令和4年10月21日(金)

19時～21時

(開場18:30)

会場

アミュゼ柏

クリスタルホール

(JR・東武柏駅東口より徒歩7分)

※YouTube による生配信あり。詳細は気象大学校ホームページに掲載。

定員・参加費

定員200名・無料（要事前申込）

※先着順。気象大学校ホームページより事前申込が必要です。９月２０日（火）より申込受付開始。

お問い合わせ先

気象大学校

千葉県柏市旭町7-4-81

☎ 04-7144-7185（内線208）

QRｺｰﾄﾞ

https://www.mc-jma.go.jp/mcjma/info/kouenkai-100yr.htm

主催 気象大学校　後援 気象大学校校友会

写真　東京市竹平町（現東京都千代田区大手町）の中央気象台（現気象庁）と測候技術官養成所（現気象大学校）

講演要旨

線状降水帯～基礎研究が生み出した防災用語～

気象研究所台風・災害気象研究部長　加藤輝之

多くの国民の方々に認知していただいた線状降水帯。気象研究所での集中豪雨に関わる基礎研究の中で、2000年前後に作り出した新しい用語です。気象大学校卒業後1年間、観測船での海上気象観測業務を経て、その後の多くは研究業務に携わってきました。気象大学校が行う予報官向け研修で部外講師を務めた際に、研修生から投げかけられた「どうして大雨域が停滞するのか」という疑問が、線状降水帯の研究を進める原動力になりました。講演ではこの経緯も含めて、線状降水帯についてお話しします。

気象庁の地震火山業務と今後懸念される大地震への備え

札幌管区気象台長　青木　元

日本は地震国。いつどこで地震に遭遇してもおかしくありません。特に首都圏では、首都直下地震や南海トラフ巨大地震などによる大きな被害が懸念されています。また、日本は世界有数の火山国でもあります。火山は、いったん噴火すると災害をもたらしますが、普段は恵みを与えてくれます。講演では、私の専門である地震分野を中心に、気象庁の地震火山業務を含め、地震や火山噴火への備えについてお話しします。